

岡野知十 ちかひ 俳人。安政七年二月十九日高國生れ、昭和七年八月十二日歿（八〇—一九三二）。舊姓木川、諱敬胤、字春徳、通稱正之助。別號ち十、りりたね、冥漢生、半茶堂、半面子、古籟屋主人、味餘亭、味餘老人、岡野のりたね、我物庵金雪、月屋、月庵、月齋生、正味、琴月、省齋、知十坊、風片生、鶯日居等。可函館毎日新聞記者後、上京して同志と雀會を興し、機關紙「俳諧」を發行。明治二十四年俳誌「半面」創刊主宰。俳書の蒐集も有名。フランク人文學雜誌家岡野馨の父。

著書「祝文教科書」（古籟屋主人名、再版・明治二十八年四月）、「東雲堂」、「可有本集」（校訂、明治二十一年五月）、「九月博文館」俳諧又庫」、「散文巖下滴京」（合著・石橋夢太郎編、明治二十二年九月十八日大學館「名家又庫」）、「音其角」（明治二十二年三月）、「十六日裳華房」文藝叢書」、「雨華抱一」（明治二十二年四月）、「四百裳華房」文藝叢書」、「夏爐冬扇（附録花の下露）」（合著・松田寅熊編、明治二十四年八月）、「四百俳諧發行所」俳諧叢書」、「俳壇風聞記」又附録「裏滑稽」（明治二十五年十一月）、「四百白鳩社」、「俳趣畫題」（内題「俳趣と畫趣」明治二十八年九月）、「四百自然社」、「名流俳句談」（合著・沼波 兼著、天生 自杜南編、明治四十一年八月）、「二十八日内外出版協會」、「趣味研究大江戸」（合著・江戸研究會編、大正二年十月）、「十四日大屋書房」、「玉菊とその二味線（附抱一と孟東野）」（編、大正九年十二月）、「小田原書房」、「湯島法樂」（大正十三年七月十日）、「白郊外社」、「蕪村その他（俳諧一家言）」（大正十三年十二月）、「白郊外社」、「鶯日」全二冊（昭和八年九月）、「四百岡野馨編刊」、「趣味

餘  
（昭和九年八月十二日岡野知十校訂）等。

